

メーターステー & ハーネスキット (スーパーマルチ TFT メーター用) 取扱説明書

製品番号 05-06-0033

適応車種	GROM	JC61-1000001 ~ 1299999
	GROM	JC61-1300001 ~
	GROM	JC75-1000001 ~
	MSX125	
	MSX125SF	

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。
 使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。
 万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。
- ◎当製品をお手入れする際には、ガソリンやシンナー等を使用しないで下さい。ラバーや樹脂部品の劣化の恐れがあります。
- ◎不明な点がございましたらお買い求めの販売店にお問い合わせ下さい。
- ◎当製品はスーパーマルチ TFT メーターを対象車両に装着する為の専用ステーキットになります。
 ステーキットに付属されるサブハーネスや小部品も対象車両専用用品になります。
- ◎当製品はスーパーマルチ TFT メーター以外のメーターには取り付け出来ません。ご注意ください。
- ◎製品プログラムは予告無く変更・改良される場合があります。
 同一の製品番号であっても製造時期により、動作や画面が多少異なる可能性があります。予めご了承下さい。
- ◎アプリ等の GPS と多少、速度差が出る場合があります。
- ◎ GROM (JC61-1000001 ~ 1299999) に当製品取り付けの事は可能ですが、メーターカバーを外します。
 弊社ではスクリーンキットの取り扱いがございません。予めご了承下さい。

～特徴～

キットにある専用ステー、専用サブハーネスを使用する事で、スーパーマルチ TFT メーターを GROM・MSX125・MSX125SF に装着する事が出来ます。
 メーター固定部にはメーターへの振動を和らげるラバースタンプを採用。
 純正メーターから当製品に変更する事で、速度、オド / トリップメーターに加え、回転数、ギアポジション、温度計、バッテリー電圧表示やタイヤ外径補正、パワーテスト機能等、非常に多くの機能を搭載する事が出来ます。外部スイッチにより、表示の切り替えや機能の設定が行えます。
 メーターにはスティック温度センサーが付属している為、SP 武川製マグネット付きドレンボルトを装着する事で、ドレンボルト部での温度測定が可能になります。

⚠ 注意 スーパーマルチ TFT メーター装着に関しての注意事項

H. I. D. や他社製 LED ヘッドライト、フォグランプ類との同時装着は出来ません。バラスト / インバーター (電圧変換装置) からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る物があり、製品故障や動作不良の原因になります。

⚠ 注意 ギアポジションの設定に関しての注意事項

ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。
 その為、“シャーシダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。
 弊社では、安全性の面から“シャーシダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。
 “実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険な為、ギア表示の学習は行わないで下さい。
 “実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。

⚠ 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時 (エンジン及びマフラーが冷えている時) に行ってください。(火傷の原因となります。)
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。)
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
 (部品の脱落の原因となります。)

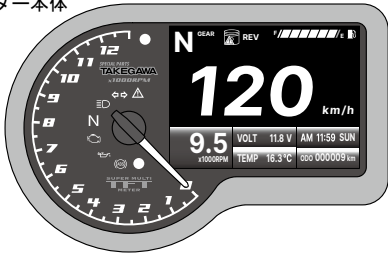
⚠ 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
 (不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(事故につながる恐れがあります。)
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)
- 走行中はスイッチ操作を行わないで下さい。(事故につながる恐れがあります。)

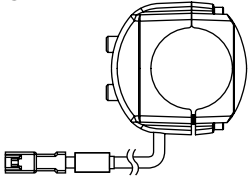
- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。
 但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
 なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

キット内容

①メーター本体



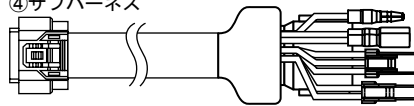
②メーター外部スイッチ



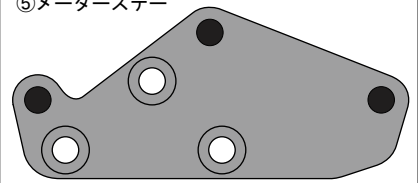
③ラバーストリップ



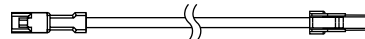
④サブハーネス



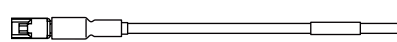
⑤メーターステー



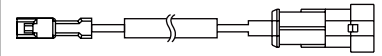
⑥温度センサー連結コード (900mm)



⑦スティック温度センサー (~250°C)



⑧ O₂ センサー連結コード (1200mm)



⑨カラー



⑩クッションラバー



⑪タッピングスクリュー (M4x12)



⑫大径ワッシャ M4 用 (4x14x1)



⑬結束バンド 300mm



⑭ナット (黒)



■スーパーマルチ TFT メーター構成部品

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
1	メーター本体	1	—	—
2	メーター外部スイッチ	1	00-05-0380	1
3	ラバーストリップ	1		1

■ステーキット構成部品 (05-06-0033)

番号	部品名	数量	リペア品番	入数
4	サブハーネス	1	—	—
5	メーターステー	1	—	1
6	温度センサー連結コード (900mm)	1	07-04-0556	1
7	スティック温度センサー (250°C)	1	07-04-0555	1
8	O ₂ センサー連結コード (1200mm)	1	00-05-0201 (非防水 / 2.0m)	1
9	カラー	3	—	—
10	クッションラバー	3	—	—
11	タッピングスクリュー (M4x12)	3	—	—
12	大径ワッシャ M4 用 (4x14x1)	3	—	—
13	結束バンド 300mm	2	—	—
14	ナット (黒)	3	—	—

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご注文下さい。
 品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。
 尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にて
 ご注文下さいませお願い致します。
 ※⑩クッションラバーは⑤メーターステーに取り付けてあります。
 ※⑧ O₂ センサー連結コードのリペア品は、キット付属の物と異なり、
 非防水の仕様になります。ご了承下さい。

メーター本体の取り付け 下の組み立て図を参照の上、車体へ固定して下さい。 **警告** 取り付けを誤ると、ボルト及びナットの破損、脱落等で事故につながる恐れがあります。

■メーター本体とメーターステーの固定方法

図1 (表面)

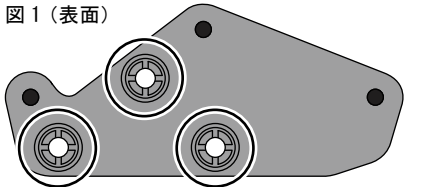


図2 (裏面)

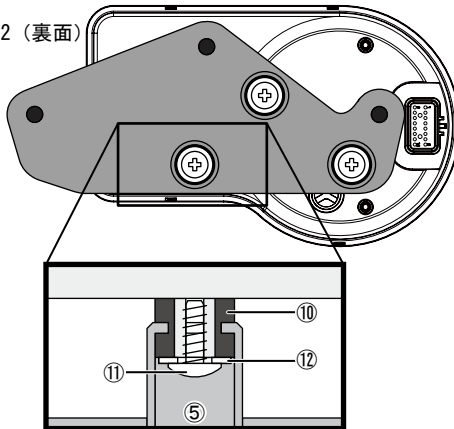


図3

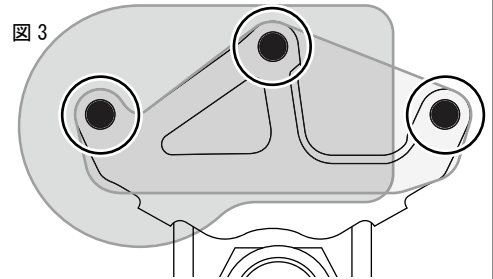
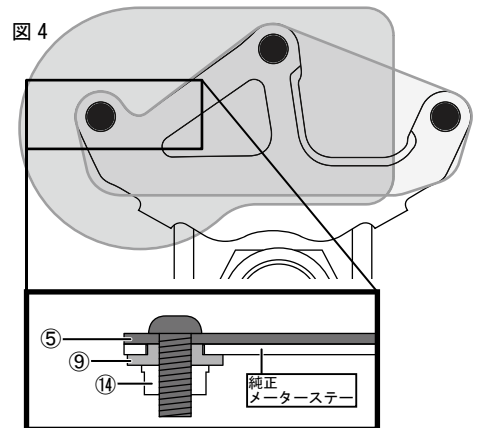


図4



- ⑨カラー
- ⑩クッションラバー
- ⑪タッピングスクリュー (M4x12)
- ⑫大径ワッシャ M4 用 (4x14x1)
- ⑭ナット (黒)

⑩クッションラバー中央にある溝に確実に⑤メーターステーを取り付けてあるか確認します。(図1) ステーにクッションラバーを装着後、各⑩クッションラバーに①メーター本体のボスを差し込みます。メーター本体のボスに⑫大径ワッシャ M4 を取り付け、⑪タッピングスクリューで固定します。(図2) をご覧頂き、部品の取り付け位置や順番をご確認下さい。

注意：タッピングスクリューの締めすぎにご注意下さい。
 固定した⑤メーターステーと①メーター本体を純正メーターステーに取り付けます。純正メーターステーにある3ヶ所の穴に⑤メーターステーに固定されているボス(ボルト)を差し込みます。(図3)
 ⑨カラーの突起部分を上にし、純正メーターステーの穴に下から差し込みます。⑨カラーの突起部分を確実に純正メーターステーの穴にはめ込み、⑭ナットにて固定します。
 (図4) をご覧頂き、部品の取り付け位置や順番をご確認下さい。
注意：必ず規定トルクを守る事。ナット トルク：10N・m (1.0kgf・m)

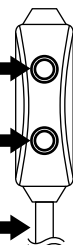
メーター外部スイッチ詳細 / スイッチの操作方法

メーター外部スイッチは、下イラストのように配線ケーブルが下にある状態で取り付けして下さい。
 下イラストの取り付け状態とし、
 上ボタンを“アジャストボタン”
 下ボタンを“セレクトボタン”とします。

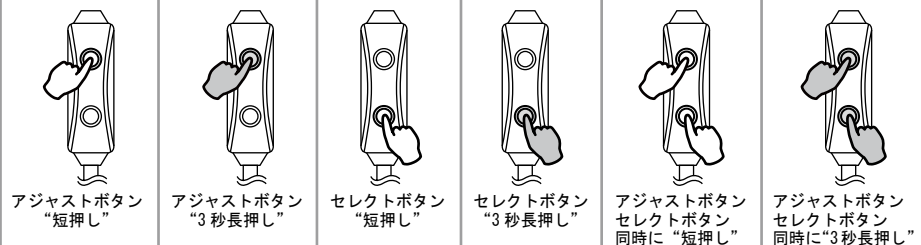
アジャストボタン (上ボタン)

セレクトボタン (下ボタン)

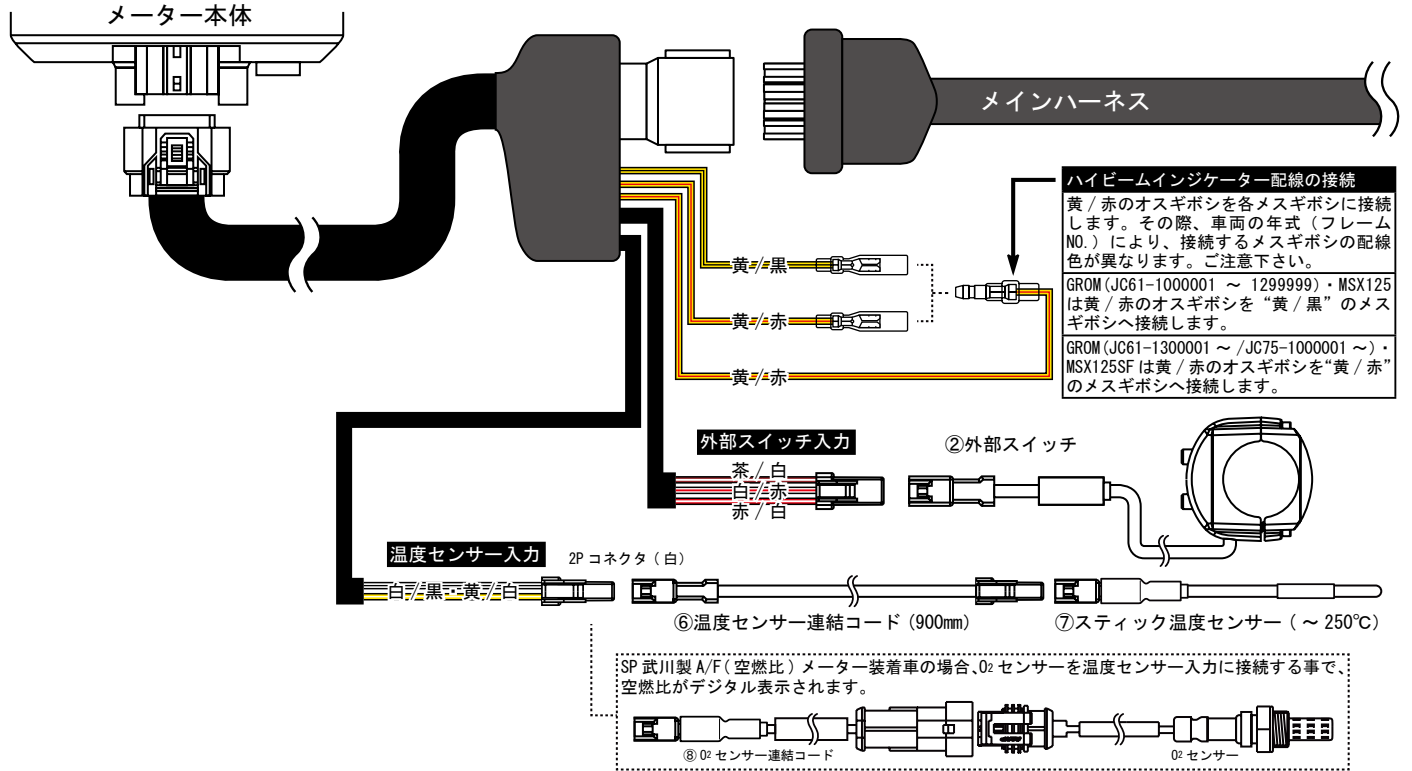
配線ケーブルが下にある状態



メーター外部スイッチの操作は、アジャストボタン (上ボタン) “短押し” “3秒長押し”、セレクトボタン (下ボタン) “短押し” “3秒長押し”、アジャストボタンとセレクトボタンを同時に “短押し” “3秒長押し” の各種押し方により、機能設定や表示切り替えを行います。下記ボタンの押し方 (説明書表示方法) をご確認ください。



配線概要



RPMコードBは、イグニッションコイル本体に接触しない様にハーネスの取り回しを行って下さい。表示が不安定になる恐れがあります。

温度センサー入力について

温度センサー連結コード、温度センサーの接続

- 温度計の測定範囲は0～250℃です。
- 油温計測を行うには、別途オプションパーツのアダプター類が必要です。
- 弊社カタログにてオプションパーツをご覧ください。
- 温度センサーを適当な位置に固定し、外気温計としての使用も可能です。

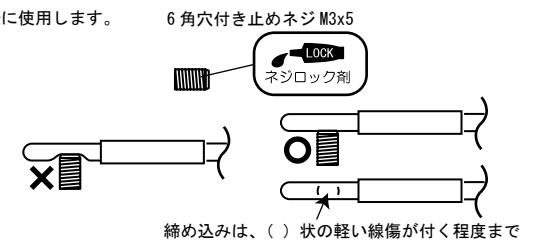
ステアリング作動による干渉や走行振動による擦れ、エンジン高温部への接触などで損傷、断線しないように配線テープやタイラップを使いフレームや車体ハーネスに配線を固定して下さい。

センサー未接続（配線が断線）時は数値が[- - -、-℃]となります。



別売オプションパーツのドレンボルトやアダプターに付属の止めネジは、スティック温度センサーを固定する際に使用します。脱落防止の為に止めネジにネジロック剤を少量付け、センサーに軽く線傷が付く程度で締め込みを止めて下さい。

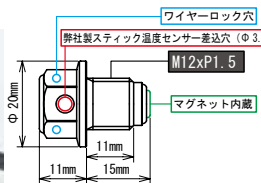
破損するとコードの断線又は短絡（ショート）と同じ状態になります。
 断線時の表示：[- - -、-℃]
 短絡時の表示：[250.0℃]



注意 止めネジの締めすぎでセンサー部が大きく変形すると、内部の電子部品が損傷してしまふ可能性があります。

温度計オプションパーツ

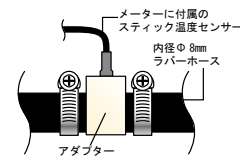
- マグネット付きドレンボルト（M12xP1.5） GROM/MSX125/MSX125SF 適合



エンジンオイルに混ざった鉄粉をドレンボルトに設けたマグネットが強力な磁力で吸着します。これにより、オイル内にある鉄粉が減少し、エンジンオイル本来の安定した潤滑性能を発揮する事が可能となります。更に弊社製アルミドレンボルトには、脱落防止としてワイヤロックが行えるワイヤロック穴と弊社製スティック温度センサー差込穴を備えています。スティック温度センサーをドレンボルトに取り付けし、弊社製スーパーマルチTFTメーターに接続する事でドレンボルト部での温度を計測する事が出来ます。ドレンボルト本体はアルミ材を精巧に削り出し、表面にカラーアルマイトを施しています。カラーはシルバー、ブラック、ブルー、レッドの4種類。弊社ロゴレーザーマーキング入り、マグネットには磁力が強力なネオジムマグネットを採用。■マグネットは“カシメ”でしっかりと固定 ■純正ドレンボルトと交換してご使用頂けます。

油温計用アダプター

- GROM/MSX125/MSX125SF 弊社製オイルクーラーキット（ラバーホース）装着車 適合



ラバーホース（内径φ8mm）採用のオイルクーラーキット装着車を対象とするスティック温度センサー差込穴付きアダプターです。オイル取り出し口とオイルクーラーをつなぐ、ラバーホースの間にこのアダプターを装着する事で、オイルライン（アダプター部）での温度を計測する事が出来ます。温度センサーはオイルと非接触の為、アダプター部での温度となりますが、オイル温度の目安としてご覧頂けます。当製品に付属のスティック温度センサーを接続する事で、温度をメーター内の液晶画面でご確認頂けます。

製品名	品番
ドレンボルト（マグネット付き）：M12 P1.5	シルバー 02-09-0022 ブルー 02-09-0024 ブラック 02-09-0023 レッド 02-09-0025
M12 シーリングワッシャー	00-00-0140
内径φ8mm オイルクーラーホースアダプター	07-04-0521

■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

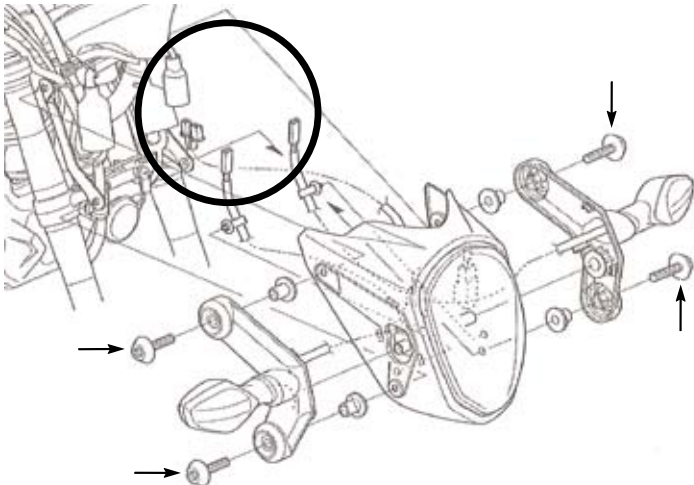
⚠ 走行距離を引き継ぐ場合は純正メーターを取り外す前に走行距離をメモなど注意に記録しておいて下さい。

メーター本体とメータースターの固定方法につきましては、説明書P2でもご覧頂けます。

純正スピードメーターの取外し作業 ヘッドライトを取り外します。

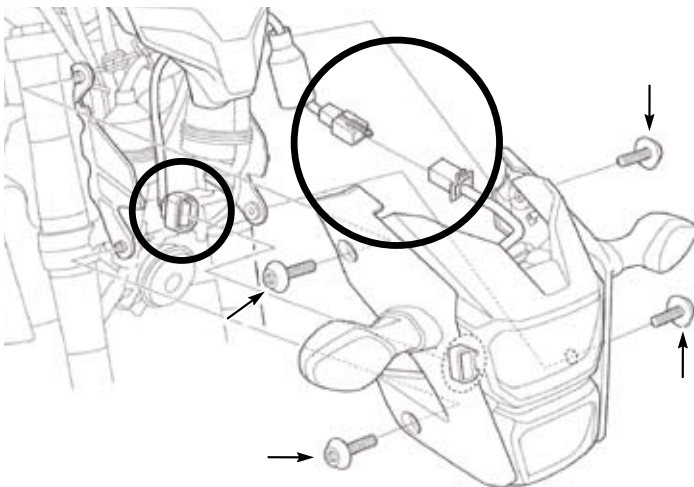
■ GROM (JC61-1000001 ~ 1299999) ・MSX125 の場合

■ヘッドライトを取り外します。
ヘッドライトユニットの左右ボルト(矢印)4本を取り外します。
ヘッドライトユニットを前方に引き出し、○枠の接続されているヘッドライトカプラー、ウインカーカプラーを外します。これでヘッドライトを外す事が出来ます。



■ GROM (JC61-1300001 ~ /JC75-1000001 ~) ・MSX125SF の場合

■ヘッドライトを取り外します。
ヘッドライトユニットの左右ボルト(矢印)4本を取り外します。
ヘッドライトユニットを前方に引き出し、○枠の接続されているヘッドライトカプラー、ウインカーカプラーを外します。これでヘッドライトを外す事が出来ます。



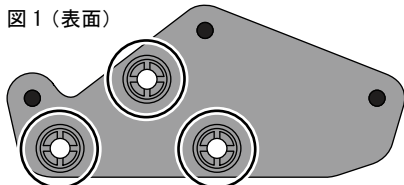
■純正スピードメーター本体を取り外します。
純正スピードメーターの裏側にある3ヶ所のボルトを取り外します。
これで純正スピードメーター本体が取り外す事が出来ます。
純正スピードメーターを取り外すと純正メータースターに純正ラバースターマウントが残り残ります。この純正ラバースターマウント(3ヶ所)も同時に取り外して下さい。

純正ボルト3ヶ所 純正ラバースターマウント3ヶ所

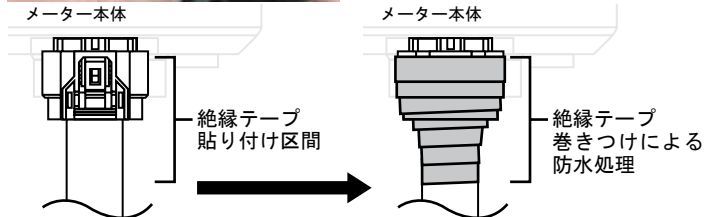


■SP 武川製メーター本体にスターを取り付けます。
⑩クッションラバー中央にある溝に確実に⑤メータースターを取り付けてあるか確認します。3ヶ所(図1)あります。

図1(表面)



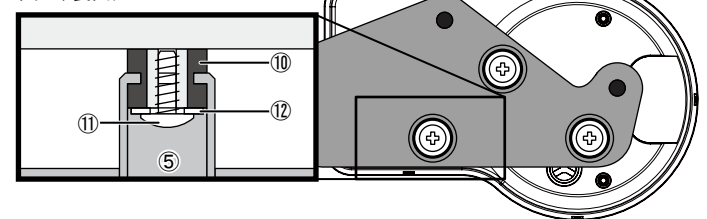
■メーター本体への接続作業
左写真、イラストを参考に①メーター本体と、④サブハーネスを接続し、絶縁テープを巻きます。



⚠注意: 絶縁テープでテーピングが行われていない場合コード内に水が入り、メーターの故障に繋がる恐れがあります。

⑤メータースターの各⑩クッションラバーに①メーター本体のボスを差し込みます。メーター本体のボスに⑫大径ワッシャ M4 を取り付け、⑪タッピングスクリューで固定します。(図2)をご覧ください、部品の取り付け位置や順番をご確認下さい。

図2(裏面)

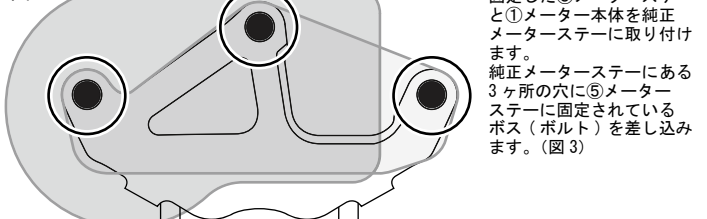


⚠注意: タッピングスクリューの締めすぎにご注意下さい。



■サブコードの取り回し
左写真を参考に④サブハーネスをメインハーネスの奥になるように通します。

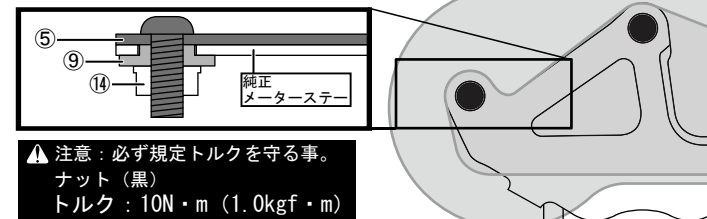
図3



固定した⑤メータースターと①メーター本体を純正メータースターに取り付けます。純正メータースターにある3ヶ所の穴に⑤メータースターに固定されているボス(ボルト)を差し込みます。(図3)

⑨カラーの突起部分を上にし、純正メータースターの穴に下から差し込みます。⑨カラーの突起部分を確実に純正メータースターの穴にはめ込み、⑭ナットにて固定します。(図4)をご覧ください、部品の取り付け位置や順番をご確認下さい。

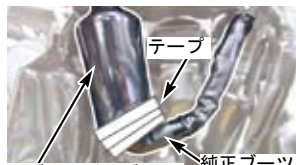
図4



⚠注意: 必ず規定トルクを守る事。
ナット(黒)
トルク: 10N・m (1.0kgf・m)

■サブコードへの接続作業

②外部スイッチ、⑦スティック温度センサー又は別売O₂センサーを説明書P3の配線概要を参考に接続作業を行って下さい。



■サブコードとメインハーネスを接続します。
写真を参考にノーマルのラバーブーツを④サブコードのブーツに入れます。少し入りにくいですが、防水性を高める為必ずノーマルブーツを④サブコード内に収めてから絶縁テープを巻き付けて下さい。
②外部スイッチ、⑥温度センサー連結コード又は⑧O₂センサーコードを下向きに出る様にして下さい。
④サブコードが上側になる様に配置します。
※カプラー内に水が入ると場合によりメーターが故障する恐れがあります。

⚠注意: 絶縁テープでテーピングが行われていない場合コード内に水が入り、メーターの故障に繋がる恐れがあります。

■ヘッドライトユニットを逆手順で取り付けます。

⚠注意: ヘッドライトユニットで、メーターハーネスを挟み込まない様に注意して下さい。断線や接触不良の原因になります。

■外部スイッチの取り付け作業

メーターハーネスへ接続した外部スイッチ、ラバーストリップをハンドルパイプに取り付けます。
※外部スイッチは、防水仕様ですが、高圧洗浄機等で直接当てないで下さい。

GROM・MSX125・MSX125SF 専用機能設定項目

車両専用機能設定を行う場合、“スーパーマルチ TFT メーターに付属のメーター本体説明書”を併用して下さい。
機能設定画面への移動変更方法や数値入力などの基本操作は、すべて“メーター本体説明書”に記載されています。
下記車両専用機能設定は、入力する数値や設定のみ記載しています。

下記番号はメーター本体説明書 機能設定項目番号になります。

■メーター本体説明書 機能設定番号 ①～⑪ ⑬～⑰の機能設定につきましては、メーター本体説明書をご覧ください。(機能設定方法を記載)				
① “Date & Clock” (日付・時計設定)	② “Unit” (速度・温度設定)	③ “Backlight” (バックライト設定)	④ “Overspeed” (速度警告設定)	
⑤ “Shift Light” (回転警告設定)	⑥ “Temp Warning” (温度警告設定)	⑦ “Volt Warning” (電圧警告設定)	⑧ “Low Fuel Warning” (燃料警告設定)	
⑨ “Oil Change(Trip 0)” (オイル交換時期警告設定)	⑩ “ABS Warning” (ABS警告設定)	⑪ “Warning Light” (警告灯設定)		
⑬ “A/F Ratio” (空燃比計設定)	⑭ “Power Teat” (パワーテスト設定)	⑰ “ODO” (走行距離設定)		

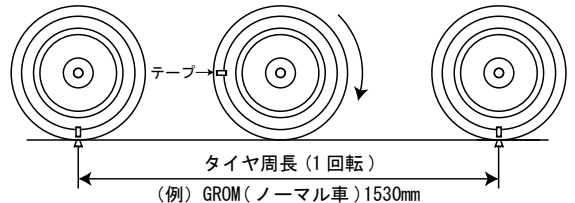
12 GROM・MSX125・MSX125SF 専用 ⑫ Speedometer (速度表示設定)

■速度信号長ささとセンサーポイント設定
タイヤ周長を測定します。下記イラストの“タイヤ周長の測り方”を参考に計測します。測定後、下記計算式に数値を当てはめて計算を行います。これにより、速度信号長さの数を求めます。そして、純正速度センサーの信号数を入力し、設定を完了します。

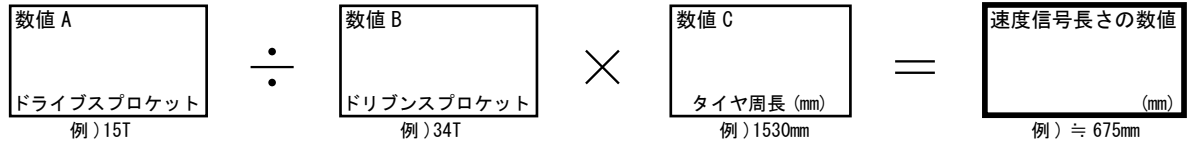
■純正速度センサーの設定方法 対象：GROM・MSX125・MSX125SF等のミッションのカウンターギアの歯数を読み込み、速度表示を行っている車両
下記計算式に必要な数値を当てはめて計算を行い、メーターに入力する数値を求めます。
必要となる数値は“ドライブスプロケット(丁数)”“ドリブンスプロケット(丁数)”“タイヤ周長”になります。

■ドライブスプロケット(丁数)を“数値A” ドリブンスプロケット(丁数)を“数値B”とします。
(例) GROM(ノーマル車) ドライブスプロケット(数値A)：15T ドリブンスプロケット(数値B)：34T

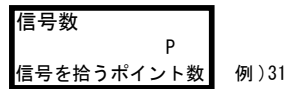
タイヤ周長の測り方 エアバルブやテープにて目印を決め、それを始点とし、タイヤを1周回転させた距離を測定します。
※設定後、タイヤサイズを変更した場合は必ず設定を変更して下さい。
■タイヤ周長を“数値C”とします。



下記計算式から値を割り出す事が出来ます。太枠内の数値が“速度信号長さ(Tire Circumference)”の数値となり、メーターに入力する数値になります。

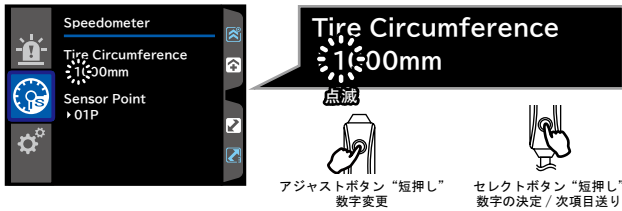


■純正速度センサーの信号数 (Sensor Point)
(例) GROM・MSX125・MSX125SF等のミッションのギアの歯数を読み込み、速度表示を行っている車両が対象となります。この場合、純正速度センサーが読み込んでいる純正ミッションのカウンターギアの歯数を入力します。太枠内の数値が“信号数”の数値となり、メーターに入力する数値になります。



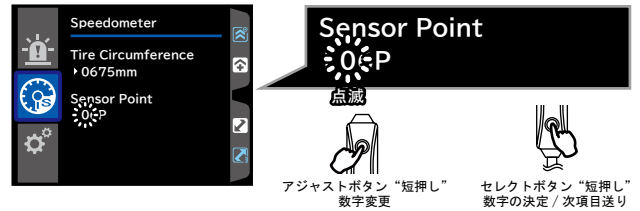
メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“Speedometer”に合わせます。タイトルに“Speedometer”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Speedometer”(速度表示設定)に入ります。

機能設定画面



機能設定画面に入ると、項目Tire Circumferenceに入り、1000の位が点滅します。ここで計算で出した“速度信号長さ”の数値を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となり、次の位に移動します。最後に1の位を決定(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となり、次項目 Sensor Point (信号数入力)に移動します。※入力はまだ確定していません。
GROM・MSX125・MSX125SF ノーマル車 速度信号長さ：675mm
ノーマルタイヤ以外を装着している場合は、装着されているタイヤ外周を測り、上記計算式から値を割り出して、数値入力を行って下さい。

GROM SP 武川製スピードセンサーキットと5速クロスミッションキット装着車の場合
上記製品を装着されている場合、スプロケットを変更していてもノーマルドライブスプロケットの丁数、ノーマルドリブンスプロケット丁数、ノーマルタイヤ周長で計算式に当てはめて値を割り出し、メーターに数値を入力して下さい。スプロケットやクロスミッション装着時の速度表示の設定はSP 武川製スピードセンサー側で行います。



Sensor Point (信号数入力画面)に入ると、10の位が点滅します。ここで、純正速度センサーが読み込む“信号数”(信号を拾う純正ミッションのギアの歯数)を入力します。点滅している10の位の数字変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。数字の決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定すると次は1の位の数字へ切り替わり、点滅します。最後に1の位を決定(セレクトボタン“短押し”)すると設定完了となり、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。更に設定画面でアジャストボタン“3秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。これで設定が確定されます。

車両がノーマルミッションの場合、純正速度センサーが読み込んでいる純正ミッションのカウンターギアの歯数を入力します。
GROM・MSX125・MSX125SF ノーマルミッション(4速)車 数値入力：31P

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面でアジャストボタン“3秒長押し”を行い、メイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。この作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

⑬ Gear (ギア設定)

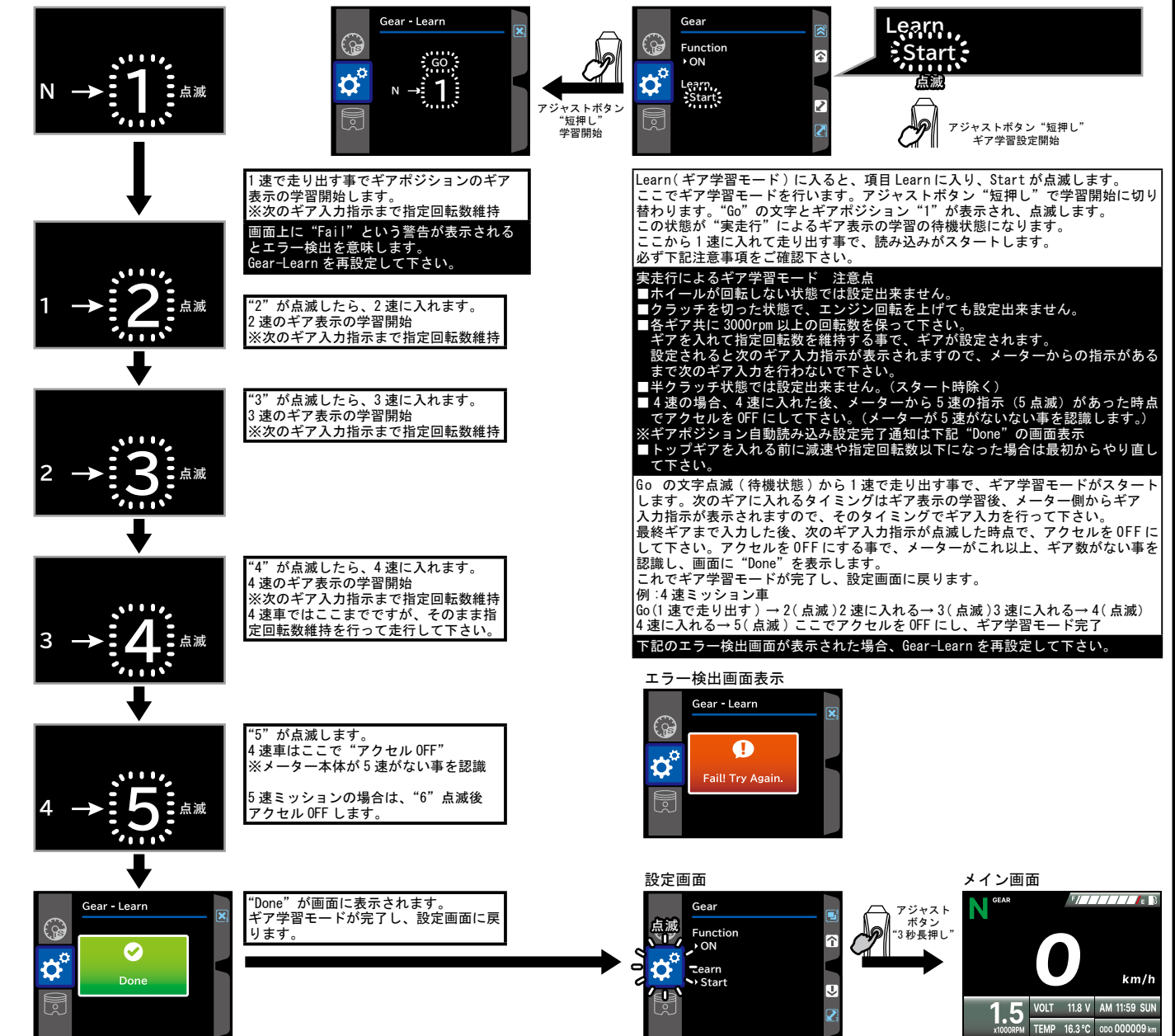
13

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前に SETUP 画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”（下スクロール）を行い、“Gear”に合わせます。タイトルに“Gear”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Gear”（ギア設定）に入ります。

※ギアポジションの設定に関して
ギアポジションの設定にはスピード信号とエンジン回転信号の両方がスーパーマルチ TFT メーターに入力される必要があります。その為、“シャーンダイナモやフリーローラー”又は“実走行”によるギア表示の学習が必要になります。又、学習を行う際、必ず速度表示が設定されている状態で行う必要があります。弊社は、安全性の面から“シャーンダイナモやフリーローラー”によるギア表示の学習を推奨します。“実走行”で行う場合、市街地では信号機や交通量が多く危険の為、ギア表示の学習は行わないで下さい。“実走行”で行う場合は見通しの良い場所を選択し、周囲の状況を確認した上で、注意して行って下さい。



※ギア学習モードを設定する前に、必ずギアをニュートラルにして下さい。
※ギアに入れるタイミングはメーター側から指示されます。ギア入力を指示される（ギア表示の学習後）まで指定回転数を維持して下さい。

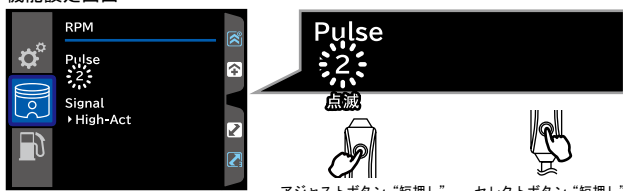


14

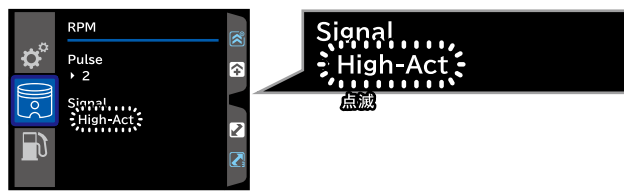
“RPM (タコメーター入力設定)”にあるRPM信号回数設定とRPM信号種類設定を行います。

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“RPM”に合わせます。タイトルに“RPM”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“RPM”(タコメーター入力設定)に入ります。

機能設定画面



下記“RPM信号入力”を参考にRPMコードの接続し、信号回数を確定した後、タコメーター入力設定にて信号回数を入力します。機能設定画面に入ると、項目Pulseに入り、数字が点滅します。ここでRPM信号回数を入力します。点滅している数字の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定(セレクトボタン“短押し”)すると、次項目Signalに移動します。
GROM・MSX125・MSX125SFのRPM信号回数：P2



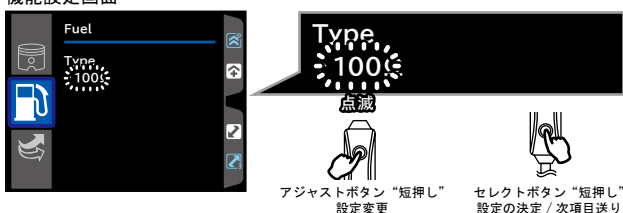
機能設定画面に入ると、項目Signalに入り、“Hi-Act”、又は“Lo-Act”が点滅します。ここでRPM信号種類の選択を行います。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。決定(セレクトボタン“短押し”)すると、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。
GROM・MSX125・MSX125SFのRPM信号種類：Hi-Act

※設定確定に関する注意点
数値入力・機能選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン“3秒長押し”でメイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

15

メイン画面からアジャストボタンとセレクトボタン同時に“3秒長押し”を行い、設定画面へ切り替えます。設定画面の前にSETUP画面が表示されます。設定画面でセレクトボタン“短押し”(下スクロール)を行い、“Fuel”に合わせます。タイトルに“Fuel”が表示されている事を確認し、セレクトボタン“3秒長押し”で機能設定画面“Fuel”(燃料設定)に入ります。

機能設定画面



機能設定画面に入ると、項目Typeに入り、プリセットされた設定(抵抗値など)が点滅します。ここで抵抗値、又は燃料設定を選択します。点滅している設定内容の変更は、アジャストボタン“短押し”で行います。決定はセレクトボタン“短押し”になります。抵抗値、又はOFFを設定し、決定(セレクトボタン“短押し”)した場合、設定画面に戻ります。※入力はまだ確定していません。ご注意ください。
※GROM・MSX125・MSX125SFは年式(フレームNO)により、抵抗値が異なります。

GROM (JC61-1000001 ~ 1299999)・MSX125の場合は、プリセットされた抵抗値にある“270Ω”を選択して下さい。
GROM (JC61-1300001 ~ /JC75-1000001 ~)・MSX125SFの場合は、プリセットされた抵抗値にある“390Ω”を選択して下さい。
⚠️ ご注意ください。
※燃料表示に問題がある場合、再度この抵抗値をご確認下さい。
※設定確定に関する注意点
抵抗値、又は燃料設定選択後は必ず、設定画面からアジャストボタン“3秒長押し”でメイン画面に戻って下さい。この作業が“設定確定”となり、メーターに設定が記憶されます。
※上記作業を行わず、キーOFFを行うと新規設定は記憶されず、設定前の状態になります。

◎メーターの作動不良等に関しては、まずメーター本体説明書のトラブルシューティングをご覧下さい。

○ GROMでのトラブルシューティング	
Hi ビームインジケータが作動しない	モデルによりサブコードの接続がP3/7の様になっているか確認して下さい。